

〈東文研・ASNET共催セミナー〉

考古学と漢籍

東京大学考古学研究室所蔵漢籍を中心に

*The Chinese Archaeology and the Chinese Classical Books
The Case of the Department of the Archaeology in the University of Tokyo*



中国考古学は歴代の文献研究や金石学を基盤として20世紀初頭に始まった。それ故中国考古学を専門とする研究機関には、現在でも多数の漢籍が残されることがある。報告者は近年、東京大学文学部考古学研究室所蔵の漢籍約380点の整理を行った。本セミナーでは、コレクションの紹介、その形成過程と特色、これらと20世紀前半の中国大陆における日本人の発掘調査・考古学研究の進展との関係性について考察したい。

◆ 日 時 : 2015年 7月 2日 (木) 17:00-18:00

◆ 報告者 : 鈴木舞氏(日本学術振興会特別研究員PD)

◆ コメント : 平勢隆郎氏(東京大学 東洋文化研究所 教授)

◆ 会 場 : 東京大学 本郷キャンパス内 東洋文化研究所 1F ロビー

※ 報告は日本語で行われます。



東京大学
日本・アジアに関する教育研究ネットワーク
Network for Education and Research on Asia

